

全校で集う3年ぶりの運動会

校長 工藤雅彦

全校で集う3年ぶりの運動会が前日から雨を全く気にすることない穏やかな秋空の下で開催されました。しかし、依然コロナ感染拡大防止策を講じる必要があり、3年前の全校開催の形とは異なり、内容はもちろん、参観の仕方や場の設定など様々な変更を余儀なくされました。保護者の皆様には全校開催に向けてのご理解やご協力をいただき感謝いたします。課題もありましたが、コロナ対策がなくなっても取り入れられそうなよさもたくさん見つけ、PTAの皆様と職員のアイディアや熱心な取り組みで無事終了することができました。

コロナ前の運動会を経験している、当時は低学年だった子どもたちが中心となって決めた、運動会スローガンにも、以前の様に盛り上がった運動会をつくり上げたいという子どもたちの気持ちが表れていました。準備期間から本番当日まで様々な制約の中でも、運動会の成功に向け、よりよいものを自分たちでつくり出そうと各自がそれぞれの役目で目標をもち、ひたむきに取り組み、力を合わせ全力で表現する姿を様々な場面で見ることができました。校長室の窓から見える校庭での動きや体育館から伝わる校長室の天井の振動から、子どもたちが日に日に自信にあふれ、力強く、研ぎ澄まされていくのを感じました。また子どもたちの振り返りからはそれを互いに認め合える気持ちも育っていると感じました。

全校児童の応援や「うんどうかいのうた」の校庭に広がる大きな声の響き合いは、全校みんなでやると大きな力が生まれることを感じられたと思います。特に「うんどうかいのうた」は十数年前の元街小の子どもたちが作り、改編し今なお伝わる貴重な取り組みです。5・6年生は互いの演技を本番間近に見せ合い、伝統を伝えたり来年の目標を抱いたりする時間ももてました。6年生のエイサーの演技が始まったときのシーンと静まり返った校庭の緊張感。誰もが息をのんで見入っていました。それだけ迫力のある素晴らしい演技でした。元街小の最上級生としての成長を感じました。6年生の本気の姿に下級生たちはあんな6年生になりたいと感じたことでしょう。

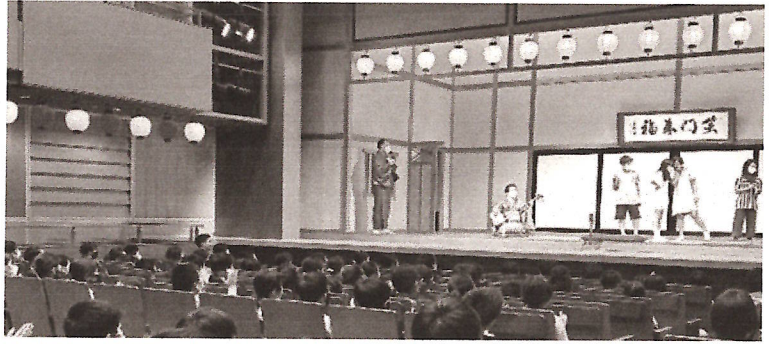
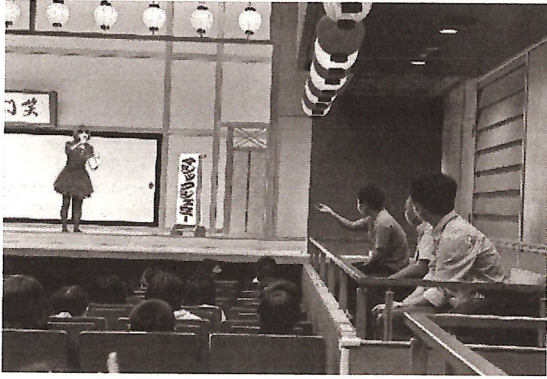
競技や演技のマスクを取った子どもたちの真剣な表情や笑顔、優れたパフォーマンス、すべての子どもたちの一生懸命な姿や集団の姿に学年を超え刺激し合い学び合えたのではないのでしょうか。応援団長の一人は、小さな団員の団結力が、多くの人に広がる力になることを自ら感じ取っていました。また、怪我や補欠選手などの理由で



競技や演技に参加できない子どもたちも、裏方で参加したり見学したりして、様々な参加の仕方ですが運動会と向き合いました。子どもたちには自分のやるべきことや自分のやれることに一生懸命取り組むことに、自信をもってほしいと思います。是非褒めて労ってください。そして、一生懸命な姿は周りの人を感動させ、あるいは周りの人から応援してもらえることを覚えておいてほしいと思います。

学校運営協議会の方々をはじめ保護者の皆様にも様々な視点からの評価やご意見をいただき誠にありがとうございました。全校で集う運動会の教育的価値をあらためて感じました。今後も子どもたちにとっても保護者の方々にとってもよりよい運動会の在り方を模索していきます。

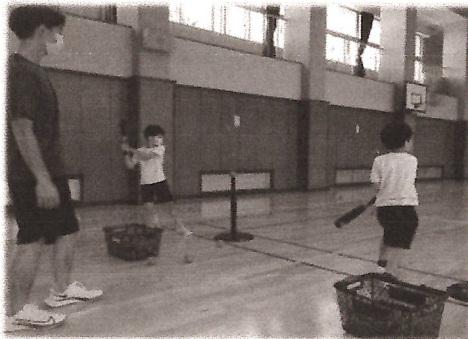
ねんせい 5年生 にぎわい座 10月3日(月) がつみっか げつ



よこはま 横浜にぎわい座で落語や演芸を鑑賞しました。代表児童が舞台上がり、三味線の音に合わせて太鼓をたたく体験をしました。落語の演目は「転失気」「寿限無」です。おなかを抱えて笑い、たくさんの拍手をして盛り上がりました。

ねんせい 1年生 ベイスターズ教室 10月4日(火) がつよっか かが

ベイスターズ教室では、バットの持ち方を教えてもらい、実際にボールを打つ体験をしました。ボールをバットに当てるのが難しかったですが、当たるととても嬉しそうに良い表情をしていました。



ねんせい 6年生 みなとちゅうがっこう 港中学校 じどうせいとごういゅうび 児童生徒交流日 10月14日(金) がつ か きん



みなとちゅうがっこう 港中学校を訪問し、授業体験をしました。部活動紹介では、主体的に活動している中学生を見て、半年後の未来の自分たちの姿への期待をふくらませていました。